

令和6年度第3回 八尾市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会

議事概要

日 時：2月3日（月）午後2時30分～

場 所：八尾市水道局 4階 大会議室

出席者：委 員 15名（欠席5名）

事務局 12名

株式会社サーベイリサーチセンター

大阪事務所 1名

※中間見直し支援委託業務受託者

開 会

次第1

あいさつ

次第2

案件（1）第4次八尾市地域福祉計画 中間見直しについて

①市民意見提出制度（パブリックコメント）の実施結果等について【資料1】

②第4次八尾市地域福祉計画改定版（案）について【資料2】

<事務局から資料を説明>

<委員の意見・質問等>

【 会長 】

- ・計画については、他市と比較してもとても柔らかい表現で、市民目線で福祉を語っているように感じる。

【 委員 】

- ・計画書や概要版はイラストが盛り込まれていて、とても分かりやすく作られており、社協の活動計画についてもこれに合わせたかたちで作成していきたい。
- ・【資料1】9番について、市民後見人は、かなりの回数の講座を修了され、しっかりとし

たスキルをお持ちの方たちなので、その方々の活躍の場を市とも協議して設けていきたい。また、人材がいらないと言う一方で、地域で活躍されている方もおられるので、そういった方たちにより活躍いただける場を提供したいと考えている。

【 会長 】

- ・市民後見人に限らず、認知症サポーター養成講座修了者など知識をお持ちの方々の活躍の場があるとよい。
- ・自殺者数は全国で約2万人と減少傾向にあるということだが、小中高の子どもの自殺が500人を超えている。不登校が30万件・いじめが60万件あり、子どもにとって生きづらい社会となっているので、もっと生き生き、のびのび暮らせる社会にする必要がある。しんどい時に相談できる場があることも重要。

【 事務局 】

- ・相談できる体制があることが重要と認識している。

【 委員 】

- ・先日、少し心配な家庭を訪問したが、母親が非常に不機嫌でしんどそうな様子であった。母親から少し話を聞くことはできたが、子どもの対応で大変な様子がうかがい知れた。学校や塾の先生に相談しているとのことだった。他にも相談できる機関があることを伝えたが、今はいっぱいいっぱいその余裕もないとのことで、訪問されたこと自体に怒っているようだった。
- ・お子さんに何らかの特性があり、対応が難しい場合もある。
- ・地域の方が声を掛けるだけで楽になることもあり、地域みんなで支えることも大事である。

【 事務局 】

- ・重要なのは、できるだけ早めに予防的に関わるということ、地域の方が早めに気付いて、声を掛けるだけでほっとすることもあると思う。そういう関係を作りたいというのが地域福祉計画の思いの根源の一つである。

【 委員 】

- ・父親が単身赴任で、母親一人で4人のお子さんを育てている方がおられる。その方が市役所の子育て関係の部署に相談したところ、夫婦関係のことは相談を受けられないと断られ、違う部署に相談したら、子どものことは受けられないと言われ、どこも話を聞いてくれなかったと聞いた。
- ・課の担当はあると思うが、一旦は相談者の話を受け止め、その上で他部署につなぐといった対応をしてほしいし、そうすれば総合的な支援につながっていく。

【 委員 】

- ・民生委員は高齢者対応のみと思われがちだが、児童委員としてもさまざまな活動をしている。昨年から子育て支援も市内8箇所で再開されたが、周知不足が課題である。通りかかった親子に声を掛けて参加してもらったりもしている。口コミが一番確実だということを実感している。
- ・親子の様子を見ていて、心配ごとがあるかもしれないと思った場合は連絡先を渡して、いつでも相談に乗るとお伝えしている。実際に連絡があり、その方の地域の民生委員・児童委員につないで訪問してもらったこともある。
- ・昨日、天満宮で行われた節分の豆まきには多くの親子連れが来ていた。地域の行事に参加し、伝統を大切にするのはいいことだと感じた。
- ・正月にはこども会で餅つきをしているが、最近は親の都合でこども会に参加できない子どももいる。みんなと一つの行事に参加するということは、子どもにとってもよい経験だと思う。こども会があれば地域にどんな子どもがいるかということも分かる。
- ・はあとサポーターとして不登校の子どもの登校支援をしているが、ふとしたきっかけで登校できるようになることがあることを、経験をもって知った。

【 委員 】

- ・概要版は市民目線で作っており、とてもよいと思う。カラーで印刷されるといいと思う。
- ・私たちの団体はよろず相談を受けているが、認知症の方についての相談が増加している。その中でも、正しい判断ができずに物品購入の契約を結んでしまったという相談が増えており、ケアマネや介護士など福祉関係の方に被害の実態を知ってほしい。

【 会長 】

- ・地域の学習会で詐欺被害の情報を共有すると、効果があるのではないかな。

【 委員 】

- ・最近は何でもこども会に入る子どもが少ない。こども会に入ると役員など親の負担が大きいという意見があるので、負担を軽減するために役員をなくしたところもある。
- ・学年を超えたつながりや交流が大切で、よい思い出にもなるので、こども会への加入を多くの人に勧めたい。ただ、町会加入が前提という話も聞くので、その点についても考えていかなければならないと思っている。
- ・最近、SNSに情報を載せることが多くなっているが、紙媒体、ポスターの効果も大きい。町会の回覧板でチラシを回さなくなってから参加者が少なくなった。

【 会長 】

- ・紙媒体、ポスター、回覧板、口コミが大切だということもその通りである。学生を集める時も口コミが確実。SNSの時代にあっても、チラシやポスターは、効果的である。

【 事務局 】

- ・情報発信は大切だと考えているので、しっかり発信していきたい。

【 委員 】

- ・概要版は分かりやすいので、概要版だけでもカラーで印刷してほしい。
- ・移動図書館の取組みはとてもよい。絵本を読む親子にとっても移動図書館は便利だと思う。
- ・子育て中は、常にお子さんと一緒だと負担感もあるので、子どもを預けて少しでも働く時間があれば気分転換ができるのではないかな。
- ・地域の子どもの顔が分かるというのは大切なことだと思う。
- ・最近、自閉症の方が地域におられ、通行人に警察に通報されるということがあった。その時は事情を知る近所の方が助けてくれた。いろいろな考えの方がいるので一概には言えないが、地域に障がいのある子どもがいるということを地域の方に知ってもらうことは大切だと感じている。

【 事務局 】

- ・パブリックコメントでいただいた移動図書館を見に行くといったイベントについては、図書館と情報共有し、検討する。

【 委員 】

- ・まずは市民の方に読んでもらわなければならないので、見やすいように概要版はカラーで印刷してほしい。
- ・市民が福祉会館等に相談に行くというのは、気軽にできるものではない。女性団体連合会の実施している電話相談は、力を入れてほしい。
- ・八尾市役所内に相談所を設ける場合は、相談に来られた方が入りやすい雰囲気づくりをお願いしたい。
- ・高齢者が小学生の登校につきまとう事象があったが、認知症の方だということが分かった。民生委員に介入してもらい、その方の家族に連絡をして対応してもらった。小学生には、学校にケアをお願いした。
- ・概要版の6ページ、7ページの箇条書きはよく作っていただいたと思い、関心した。
- ・一人暮らし高齢者については、詐欺被害対策としてチラシを配布している。着物の買取業者を名乗って自宅に上がり込むケースもあり、絶対に玄関を開けないようにと伝えてい

る。

- ・青色防犯パトロールも詐欺に注意ということで常時、地域内を走って啓発をしている。

【 委員 】

- ・関わりたくない、関わってほしくないという人が増えている中で、地域福祉を推進することは容易ではない。
- ・障がい者も共に生きて当たり前ということをどうしても八尾市全体に啓発したい。その手段の一つとして、社協に災害時要配慮者の支援体制づくりをお願いしている。それによって八尾市民の障がい者に対する理解が深まると思う。
- ・災害時要配慮者の一番の目的は、地域に住む障がい者を知ってもらうことである。隣に誰が住んでいるか分からないようでは困る。

【 委員 】

- ・今回の地域福祉計画はとても立派で中身もいいと思っている。
- ・八尾市内にこれだけの団体があって、それぞれやる気を持って頑張っておられるが、残念なことに市民はその存在を知らない。社協の存在すら知らない市民もいる。
- ・DV被害に遭った場合に、どこに相談に行ったらいいか分からず困っている方がいた。相談先を教えてもなかなか足が向かない。
- ・市民は困りごとがあったら、まず市役所に行くと思うが、相談先が分かりにくいので、相談窓口が市役所内の目に付くところにあれば相談につながりやすいと思う。

【 会長 】

- ・市役所は「断らない相談」を徹底し、まずは受け止めなければならない。

【 事務局 】

- ・総合相談となると、子どもから高齢者までの知識を持つスペシャリストを置かなければならないが、そういう人材を育てることは難しい。ただ、しっかり話を聞いて、適切なところにつなげる仕組みをつくることはできる。どこが相談を受けたとしても取りこぼさないようにしたい。

【 委員 】

- ・チラシの回覧やポスターの掲示が少なくなっている。町会の役員不足のためチラシ回覧やポスター掲示などの案内業務は辞退することになったが、それによって情報伝達方法がなくなり、各地区がつかないという事態が起きた。そのため令和7年度はできる限りチラシを回覧し、ポスターを貼ろうということになった。
- ・地域福祉計画は丁寧で分かりやすい計画になっているが、一つずつ実現しようとすると社

協が大変だと思う。その次に各地区の福祉委員にも負担が掛かる。実現のためには相当な時間が掛かるのではないと思う。

- ・ある地区では福祉委員会が福祉会報を発行して各団体を紹介している。市民はどのような団体があるか知らないという意見もあったので、今後も各組織の紹介をしていきたい。
- ・各地区委員が地域福祉計画の内容を実行しようと思うと地区の役員や市民の協力が必要だが、一生懸命集めても 30 人が限界である。協力を得るには積み重ねしかないと思っている。

【 委員 】

- ・今回の計画にはボランティアのことが盛り込まれていてうれしく思っている。
- ・ボランティア連絡会としては、啓発を兼ねて地域の人と接触し、担い手を増やしたいと考えているがなかなか難しい。これから社協に入ってもらって実現していきたい。
- ・担い手不足の一つの要因として、ボランティア活動への敷居が高いということもあるので見直していきたい。
- ・各サークルの活動はしっかりしてくれている。子どもから高齢者までいろいろな人と接してもらいたいと思っている。

【 委員 】

- ・概要版について、全戸配布できないとのことだが、うちには社協だよりが届くが、そういうことをすることで認知度も上がると思う。
- ・高齢者詐欺については、地域包括支援センターで高齢者向けセミナーを開催したり、各自治振の住民懇談会で防災や詐欺防止の話をしているので活用いただきたい。
- ・若い人でも詐欺に遭うことがあるようで、正式な QR コードの上に詐欺サイトにつながる QR コードが貼ってあったという手口だった。
- ・アナログ的な詐欺の手口もまだまだ多くあり、訪問や電話での詐欺も多い。地域包括支援センターでも相談を受けている。各団体で詐欺に関する情報交換をしないといけないと思っている。

【 委員 】

- ・重層的支援体制整備事業が計画の 16 ページに載っているが、重層的支援体制というのは仕組みの話であって、相談支援や参加支援、地域づくりをしていくことが大切である。そこができないと情報交換ができない。地域づくりを大事にする計画になるといいと思う。
- ・概要版の活用方法も含めて議論が必要だと思う。
- ・パブリックコメントを実施しても、6 人の方からしか意見が集まらなかったのは寂しく思う。意見が集まれば集まるほど市民にとって良い計画になる。引き続き発信し、市民の声を聞いてほしい。

【 会長 】

- ・他自治体の地域福祉計画の概要版と比べてもとても良い内容のもので、市民目線でも分かりやすいものができあがったと思う。
- ・福祉の特別感をなくして、当たり前、日々の暮らしの中で、もちろん専門職でないとできないこともあるが、地域の人のごく普通に関わることで得られる効果もたくさんあるので、そうした人を増やしていくことが重要。

次第 3

その他

なし。

閉 会